経済・金融フラッシュ

景気ウォッチャー調査 13 年 2 月
～現状判断 DI は 10 ヶ月ぶりに 50 を上回る高水準に

経済調査部門　研究員　押久保　直也
TEL:03-3512-1838　E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

景気ウォッチャー指数

	景気ウオッチャー調査　現状判断DI				景気ウオッチャー調査　先行き判断DI			
	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
11年6月	49.6	49.8	47.3	53.4	49.0	47.9	48.9	57.0
7月	52.6	51.8	51.7	59.5	48.5	46.4	49.9	58.7
8月	47.3	45.2	48.3	58.4	47.1	45.4	48.3	55.3
9月	45.3	43.2	46.0	58.4	46.4	46.1	44.7	51.7
10月	45.9	44.5	46.1	54.8	45.9	46.1	43.0	51.0
11月	45.0	43.6	45.4	53.0	44.7	44.3	43.3	50.5
12月	47.0	46.5	45.4	54.9	44.4	43.8	43.5	50.6
12年1月	44.1	42.8	42.6	55.5	47.1	46.6	47.2	50.7
2月	45.9	44.4	44.8	57.7	50.1	49.9	49.0	53.5
3月	51.8	51.1	51.0	58.1	49.7	49.3	48.8	54.3
4月	50.9	50.3	48.7	59.6	50.9	50.6	49.8	55.9
5月	47.2	46.4	45.9	55.2	48.1	47.7	47.7	51.6
6月	43.8	42.1	44.4	53.9	45.7	44.5	46.8	50.8
7月	44.2	42.8	44.8	52.1	44.9	43.9	45.8	49.4
8月	43.6	42.1	44.0	52.5	43.6	42.6	45.0	47.6
9月	41.2	40.2	40.0	50.8	43.5	44.1	41.3	44.9
10月	39.0	38.4	38.3	44.3	41.7	41.9	40.5	43.2
11月	40.0	39.2	40.6	44.5	41.9	42.0	41.9	41.2
12月	45.8	45.5	45.6	48.5	51.0	50.2	52.8	52.8
13年1月	49.5	48.3	50.2	55.3	56.5	55.4	58.6	58.9
2月	53.2	51.7	55.0	58.6	57.7	57.0	59.1	59.3

（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」
（注）「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種（小売関連、飲食関連、サービス関連など）の景気判断、企業動向関連業種（製造業、非製造業など）の景気判断、雇用関連業種（人材派遣業、職業安定所など）の景気判断を示す。

1. 景気の現状判断 DI 動向： 4ヶ月連続の上昇

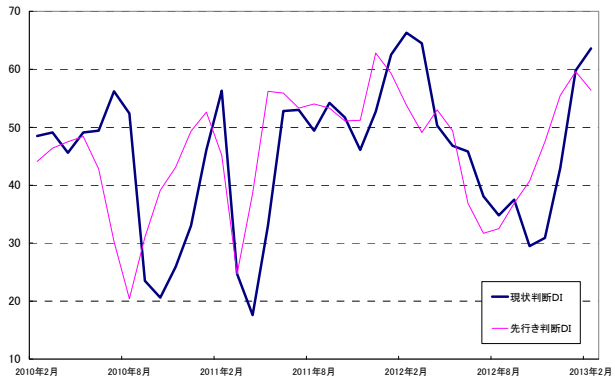
3 月 8 日に内閣府から発表された 2013 年 2 月の景気ウォッチャー調査によると、景気の現状に対する判断 DI は 53.2 となり、前月を 3.7 ポイント上回り 4 ヶ月連続の上昇となった。

項目別に見てみると、家計動向関連は、51.7ポイントと前月を3.4ポイント上回った。その主な要因としては、①円安、株価上昇等に伴い景況感が改善している中、エコカー補助金制度終了直後の反動減が落ち着き、新型車効果から新車販売が好調なこと、②中国の大気汚染問題が深刻化していることを受け、空気清浄機を中心とした家電製品の販売高が好調であったこと、③卒業旅行などの海外旅行の申し込みが好調に推移していること、の3点が挙げられる。

 Copyright ©2013 NLI Research Institute All rights reserved

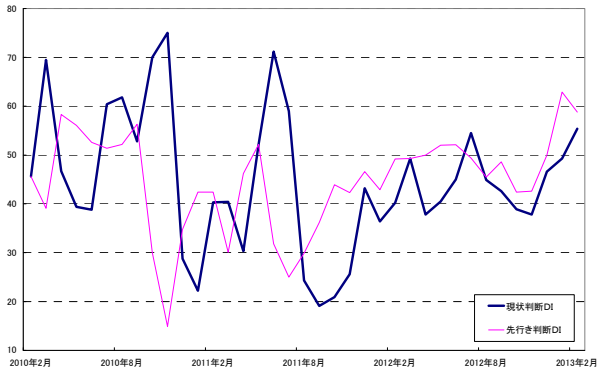
①に関する具体的なコメントとしては、「エコカー補助金終了直後の反動減も落ち着き、新型車効果もあり、新車販売が上向いてきている。」（東北＝乗用車販売店）などがあり、乗用車・自動車備品販売店のDIは63.6ポイントと前月を3.8ポイント上回った。②に関する具体的なコメントとしては、「業界では空気清浄機の販売が好調で、売上に大きな変化が出てきている。」（近畿＝家電量販店）などがあり、家電量販店のDIは55.4ポイントと前月を6.1ポイント上回った。③に関する具体的なコメントとしては、「急激に円安が進む中、卒業旅行シーズンともあいまって、海外旅行の駆け込み申込が増えている。3月までは、旅行申込の増加が続くと予測する。」（東海＝旅行代理店）などあり、旅行・交通関連のDIは52.2ポイントと前月を3.8ポイント上回った。

乗用車・自動車備品販売店



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

家電量販店



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、55.0ポイントと前月を4.8ポイント上回った。これは「円安によって輸出採算性が向上し、価格競争力が回復している」（四国＝一般機械器具製造業）などから、安倍政権による金融緩和強化に伴い為替が円安に大きく振れたことで、製造業を中心に多くの企業の収益に改善の傾向が見られることが影響していると思われる。更に、「分譲地の販売が好調であり、消費税増税前の駆け込み需要としての住宅着工が増えることにつながっている」（東北＝司法書士）などから、消費増税前の駆け込み需要が住宅着工の増加に寄与していることも影響しているとみられる。

雇用関連は、58.6ポイントと前月を3.3ポイント上回った。これは「建設、土木関連を中心とした受注が増えている」（近畿＝人材派遣会社）や「円安による追い風を受けて、大手メーカーが増産にシフトしつつある。それにより、周辺企業にもまもなく恩恵が出てくると思われる」（東海＝人材派遣会社）などから、円安による業績改善から製造業を中心に雇用が持ち直しつつある中で、安倍政権による大型公共工事が実施される建設関係を中心に求人が増えたことが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の現状に対する判断 DI は全国すべての 11 地域で対前月比上昇した。最も上昇幅の大きかったのは沖縄（8.9 ポイント上昇）、最も上昇幅が小さかったのは東北（1.0 ポイント上昇）であった。沖縄は、県外企業が沖縄に進出する雇用創出事業が活発化した影響と思われる。一方、東北は、長引く寒波や積雪に伴う消費の停滞がみられたことで、最も上昇幅が小さかったとみられる。

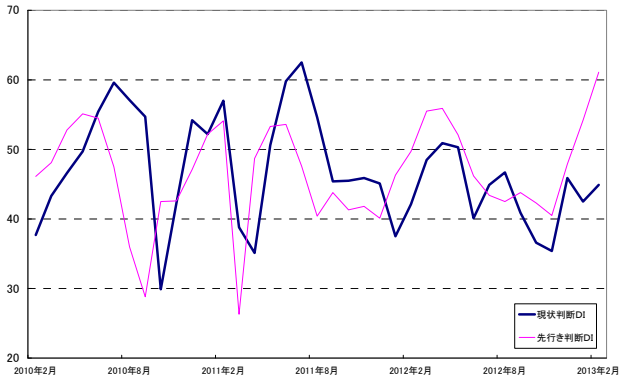
 Copyright ©2013 NLI Research Institute All rights reserved

2. 景気の先行き判断 DI 動向： 4ヶ月連続の上昇

景気の先行きに対する判断 DI は 57.7 となり、前月を 1.2 ポイント上回り 4 ヶ月連続の上昇となった。

項目別に見てみると、家計動向関連は、57.0 ポイントと前月を 1.6 ポイント上回った。その主な要因としては、安倍政権の景気刺激策に伴う消費マインドの改善を受け、個人消費が活発化するとみられることが挙げられる。具体的なコメントとしては、「円安や株価上昇による輸出拡大など、連日の消費マインド改善ニュースもあり、期待ができる。」（南関東＝コンビニ）や「アベノミクスの効果が感じられ、消費者マインドも上向きになってきた。１人当たりのゲーム料が上がっている。」（南関東＝その他レジャー施設）などがあった。一方で、円安に伴い、食料品やガソリン価格、電気料金など輸入品価格が上昇することで、逆に家計を圧迫することにつながるといった懸念も引き続きみられる。

コンビニエンスストア



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、59.1 ポイントと前月を 0.5 ポイント上回った。これは「円安基調及び大型補正予算、公共工事の安定した発注等をみれば、今後好調に推移する。」（中国＝電気機械器具製造業）などから、安倍政権による積極的な景気刺激策の効果が景気回復といった形で現れることが期待されていることの影響と考えられる。

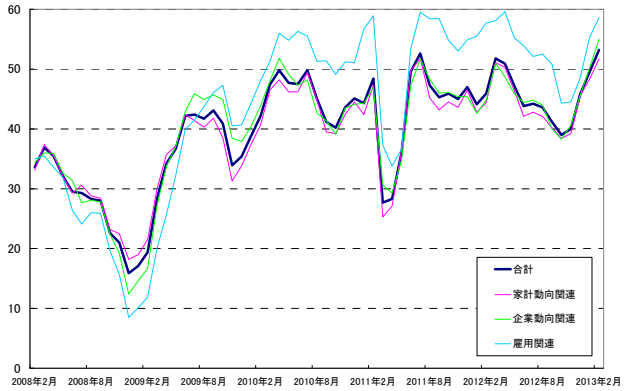
雇用関連は、59.3 ポイントと前月を 0.4 ポイント上回った。これは緊急経済対策が実行されるに伴い、人材需要が徐々に活性化していくとみられることが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の先行きに対する判断 DI は全国 11 地域中 7 地域で対前月比上昇し、4 地域で対前月比低下した。最も上昇幅の大きかったのは東北（4.1 ポイント上昇）、最も低下幅が大きかったのは沖縄（3.1 ポイント低下）であった。東北では緊急経済対策から震災復興関連事業が更に盛り上がることが期待されることで、景気の先行き判断 DI が最も上昇している。一方、沖縄では雇用助成金が 3 月で切れる上に、円安による輸入材料等の値上がりが消費に悪影響を及ぼしかねないといった慎重な見方も見られたことから景気の先行き判断DI が最も低下している。

2013 年 2 月の調査では現状判断 DI、先行き判断 DI は共に前月を上回っており、現状判断 DI は 10 ヶ月ぶりに 50 を上回る水準まで持ち直した。欧州債務問題の再燃など不安材料があるものの、消費増税に伴う駆け込み需要や安倍政権の景気刺激策による景気回復への期待感が見られるなど、景気は持ち直してきている。

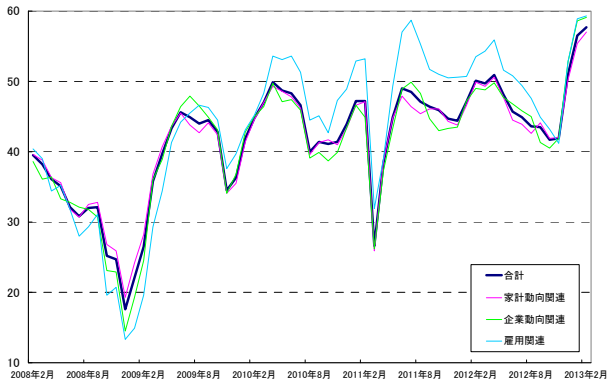
 Copyright ©2013 NLI Research Institute All rights reserved

景気の現状判断ＤＩの動向（項目別）



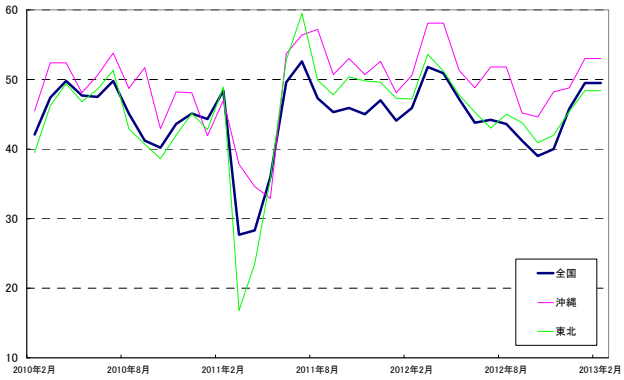
（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の先行き判断ＤＩの動向（項目別）



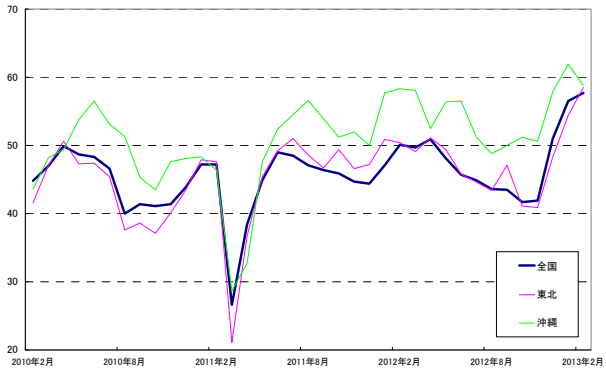
（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の現状判断ＤＩの動向（地域別）



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

景気の先行き判断ＤＩの動向（地域別）



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。